

## 「動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症治療ガイド2013年版」第1版正誤表

### 76ページ 表12-1 成人（15歳以上）FHヘテロ接合体診断基準

（誤）

3. FHあるいは若年性冠動脈疾患の家族歴（2親等以内の血族）

（正）

3. FHあるいは早発性冠動脈疾患の家族歴（2親等以内の血族）

### 76ページ 表12-1 成人（15歳以上）FHヘテロ接合体診断基準 脚注2行目

（誤）

\*2項目が当てはまる場合、FHと判断する。

（正）

\*2項目以上が当てはまる場合、FHと判断する。

### 76ページ 表12-1 成人（15歳以上）FHヘテロ接合体診断基準 脚注7行目

（誤）

\*若年性冠動脈疾患は男性55歳未満、女性65歳未満と定義する。

（正）

\*早発性冠動脈疾患は男性55歳未満、女性65歳未満と定義する。

### 76ページ 表12-2 小児ヘテロ接合体の診断基準

（誤）

2. FHあるいは若年性冠動脈疾患の家族歴（2親等以内の血族）

（正）

2. FHあるいは早発性冠動脈疾患の家族歴（2親等以内の血族）

83ページ A 専門医に紹介すべき脂質異常症とは 11行目

(誤)

- ・家族歴が濃厚な若年性動脈硬化性疾患症例。

(正)

- ・家族歴が濃厚な早発性動脈硬化性疾患症例。

105ページ Keyword 19 「食物繊維」2行目

(誤)

食物繊維は、水溶性食物繊維（セルロース、リグニン、アルギン酸カルシウム、キチン、キトサン、コラーゲンなど）と、不溶性食物繊維（ヘミセルロース、ペクチン、グアーガム、コンニャクマンナン、カラギーナン、寒天、マルチトール、ガラクトオリゴ糖、難消化性デキストリン、コンドロイチン、ポリデキストロースなど）に分類され、植物や海藻などに存在する。

(正)

食物繊維は、不溶性食物繊維（セルロース、ヘミセルロース、リグニン、キチン、キトサンなど）と、水溶性食物繊維（ペクチン、グアーガム、グルコマンナン、アルギン酸、カラギーナン、イヌリンなど）に分類され、植物や海藻などに存在する。

## 108ページ Keyword 26 「ホモシステイン」

(誤)

ホモシステイン尿症は若年で動脈硬化症をきたすことが知られていた。高ホモシステイン血症でも動脈硬化症が進展する。ホモシステインはメチオニンがメチル化されて産生され、異化は、SH基転移反応と再メチル化反応の2経路で行われる。前者にはビタミンB<sub>6</sub>が重要であり、後者には葉酸、ビタミンB<sub>12</sub>を必要とする。

(正)

ホモシスチン尿症の患者に血栓ができやすく動脈硬化が進展しやすいことが報告されていたが、多数の疫学研究より血中ホモシステイン濃度高値が動脈硬化症と関連があり、さらに血中ホモシステイン濃度の上昇により心筋梗塞の相対リスクが高まることが示されている。ホモシステインはSH基を有する還元性アミノ酸であり（血中では2分子がS-S結合したホモシスチンの形で存在）、ビタミンB<sub>6</sub>を補酵素とする硫黄転移反応経路にてシステインへ、またメチル基をホモシステインに転移する反応（2種類の反応が存在し、その一方にはビタミンB<sub>12</sub>が補酵素として、葉酸がメチル基供与体として必要）にてメチオニンへと代謝される。

## 131ページ 家族性高コレステロール血症の診療可能な施設等一覧

(誤)

帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科 原 眞澄

(正)

帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科 原 眞純